

第2次千葉市文化芸術振興計画（案）に対する意見の概要と市の考え方

・ご意見の一部は、趣旨を損なわない範囲で要約・集約させていただきました。

No.	章	頁	意見の概要	市の考え方	修正
1	1	1	マスタープランを策定して新しい千葉文化を創造することを目指して今に至ったとあるが、それがどのような段階にあるのだろうか。「新しい千葉文化」とは一体何かと思う。節目では、その十分な分析が欲しいし、はたして、育ってきているのか、そこから始めてほしい。	第2次計画を策定するにあたっては、「千葉市文化振興マスタープラン」の理念に基づいた具体的な計画である第1次計画の関連事業の進捗状況等も含めて、総合評価を行いました。 第2次計画では、5つの基本施策「広げる」「育てる」「支える」「つなぐ」「活かす」が循環する施策の展開により、新しい千葉文化の創造をめざします。	—
2	2	8	第2次計画の策定にあたり、第1次計画の評価が論点の整理としてなされていることは、大切なことだが、アンケートの結果をもとに結論をつけて、次への課題を求めるのは、市民意見への迎合だと思う。もっと理念が先行してもいいのではないか。 総合評価の後半は、大切なことを述べている。一過性ではいけない、20から30年サイクルで動く、世代交代を含めた目標、点を線で結ぶなどの表現で文化を表そうとしているところには共感を持つ。総合評価としてはこれらがまだ不十分であると理解していいのだろうか。ここが第2次計画を策定する際のポイントになると思う。	第1次計画の総合評価を受け、第2次計画では5つの施策が循環することで、これまで点であった事業が線で結ばれていくものとの考えから、基本施策のイメージを図化して表現しています。 さらに本計画では、めざすべき姿を「あらゆる世代の市民が文化による自己表現の場に触れ、共感を生み、つながり、文化を創り出す力にあふれたまち」として、施策の方向性を示しています。	—
3	2	9	アンケート結果をもとに現状と第2次計画への課題を求めているが、課題Aは文化のとらえ方がちょっと違うようだ。「気軽に楽しめる」は娯乐的であって文化とは云えないようである。「バラエティ番組」的になってはいけない。これこそ総合評価で言われた「一過性」ではないだろうか。 アンケート結果をそのまま肯定するのではなく、あるべき姿に導くことを課題とすべきではないか。	文化芸術への入り口として、気軽に楽しむことができる身近な催しの充実ととらえています。 ご意見のとおり、「娯乐的」「一過性」にならないよう、今後、事業を実施していくうえで、意を用いてまいります。	—

No.	章	頁	意見の概要	市の考え方	修正
4	2	10	課題Bは同感だが、一般的に受け身的交流になる場合が多いように思う。人が与えるものを楽しむだけの受け身的交流では共有にならない。自ら創造して初めて共有になる。そこまで説く人がいなければならない。	計画の基本施策2で「育てる」、4では「つなぐ」ことを柱としており、それ以外の施策とも循環することにより市民自らの文化芸術活動につながるよう事業を展開してまいります。	—
5	2	12	課題Dが一番関心のあるところである。ここではいわゆる伝統文化をあげているようだが、現代のものやこれから生まれて来るであろう新しいものでも、積み重ねて歴史を持たせて行くところに文化が根付いてくるはずである。それが文化の創造だろう。それを増やし、次世代へ引き継がれてゆくことで、文化のまちが出来てくると思う。これが文化振興だろう。いわゆる伝統文化にこだわると文化の振興が止まるかもしれない。	市内にある地域資源や歴史的資源、人的資源などから文化的要素を掘り起し、市民の主体的な文化芸術活動につなげていくことが重要と考えています。 ご意見につきましては、今後、各事業を実施していくうえでの参考とさせていただきます。	—
6	3	21	第2次計画の基本的な考え方では、基本理念と基本目標に矛盾を感じる。新しい千葉文化の創造と言いながら、基本目標では伝統的な地域文化や遺産の継承というように、内容が急に萎んでしまう表現になってしまい残念である。 個性、世界性などに分けることに無理があるようだ。個性、協働は何所にも必要である。	千葉市文化振興マスタープランでは、「個性豊かな新しい千葉文化の創造」の理念のもと、3つの基本目標を掲げています。本計画ではさらにこの基本目標を達成するための5つの基本施策により、体系的にその実現化をめざしています。	—
7	3	25	2 事業展開にあたっての基本姿勢（2）文化芸術の拠点施設に千葉市文化センターを掲げてありますが、拠点づくりを考えてほしい。そして拠点を点として掲げるのではなく、もっと広げて面でとらえることを提案する。 例えば、JR千葉駅から文化センターまでの道筋をプロムナード化するような大がかりな街作りが欲しい。銀行や証券会社を一つの共同ビルにまとめ、空いたスペースを人の集まる文化のプロムナードに変えて、県立文化会館や市立美術館までつなげてしまうような構想を持ちたい。	市内文化施設の連携強化を図るとともに、文化施設以外なども有効に活用することで、文化芸術活動の場を広げ、より多くの市民が文化芸術に触れる機会の提供に努めてまいります。 ご意見につきましては、今後、各事業を検討していくうえでの参考とさせていただきます。	—

No.	章	頁	意見の概要	市の考え方	修正
8	4	27	第4章では文化を創造する人材を育てることを掲げているが、人材を育てる人も必要である。千葉にしなければ外部からふさわしい人を連れてくるのを考えてはどうだろうか。 また、毎年新人芸術家を選考して世に送り出しているが、出しっぱなしになっていないだろうか。選考した人材を郷土で迎え入れ、活動の場を提供することも大切だが、それが少ないように思う。	将来にわたって文化芸術を発展させていくためには、次代を見据えた人材の育成とともに、文化芸術活動を支える人材の育成も重要であることから、様々なサポート体制の充実を図ります。 ご意見につきましては、今後、各事業を検討していくうえでの参考とさせていただきます。	—
9	4	29	基本施策3（1）文化芸術活動の場の充実 ②文化施設以外の場の活用 〔具体策〕 市内の空き家（公団・マンション・戸建、ビジネス関係のビルで空いている部屋など）のスペースを利用し、絵の教室、音楽活動、演劇活動などができるように工夫する。市民に運営を任せ、場所に係る費用は市が負担する。これらを活用することで、より多くの市民が芸術を楽しみ、生きがいとやりがいと目標をもって充実した人生を過ごせる。	市内文化施設の連携強化を図るとともに、文化施設以外なども有効に活用することで、文化芸術活動の場を広げ、より多くの市民が文化芸術に触れる機会の提供に努めてまいります。 ご意見につきましては、今後、各事業を検討していくうえでの参考とさせていただきます。	—
10	4	29	基本施策3（2）活動しやすい環境の整備 ②個人が行う文化芸術活動への支援の充実 〔具体策〕 空きスペースを活用し、絵画制作、陶芸、音楽活動、演劇活動など個人が活動できるスペースをつくる。また、コミュニティセンター・公民館・生涯学習センターなどの部屋を個人でも借りられるようにシステムを整備する。 施設利用を団体に貸すだけでなく、個人的に借りられるようにシステムを整備し、多くの市民が芸術に触れて楽しみ「芸術の都・千葉市」を目指す。	市内文化施設の連携強化を図るとともに、文化施設以外なども有効に活用することで、文化芸術活動の場を広げ、より多くの市民が文化芸術に触れる機会の提供に努めてまいります。 具体的な取り組みに関するご意見については、今後、各事業を検討していくうえでの参考とさせていただきます。	—

No.	章	頁	意見の概要	市の考え方	修正
11	4	29 ～ 31	基本施策 3・4に関わることで提案する。もっと枠を広げて文化・芸術を育み「支える」環境整備について、計画の中に取り組んでももらいたいことがあるので、その事例を紹介する。 市民オペラは千葉市が政令指定都市となった記念事業の一つとして誕生し、以来、教育委員会文化課の指導のもと、2年に1度、多大な市の予算をもとに千葉県文化会館で2日間のグランドオペラ公演が実施されてきた。中心となり企画・運営してきた市民団体「千葉市民オペラ」は、市からの公演助成による本公演とその合間に自主公演や市民音楽祭、市民芸術祭などにも積極的に参加し、活動を20数年続けているが、会員の高齢化と減員は否めない状況である。今ではオペラ公演に対する市の助成もなくなったが、市民団体「千葉市民オペラ」は小規模ながら活動を続けている。20数年も続いてきた「千葉市民オペラ」の歴史が、何ら公的な記録もないまま、かつての活動スタッフの引退と共に消え去ってしまう運命にあるということは問題である。活動の継続とともに記録の蓄積と広報が必要であることは認識していたが、専門スタッフを擁するまでには至らず、実現できないままである。「市民オペラ」の活動の歴史と記録を集大成として、後世に残すようにできないか。願わくば、千葉市の人的、経済的支援も頂いて、20数年築いてきた千葉市のオペラの文化遺産を形あるものに育てあげたいと思う次第である。	具体的な取り組みに関するご意見については、今後、各事業を検討していくうえで参考とさせていただきます。	—

No.	章	頁	意見の概要	市の考え方	修正
12	—	—	かねてより市民文化大学で講義を受けていたが、昨年、突然平成28年度より廃止予定と聞き、非常に残念に思っている。市政だよりによると芸術振興の中には古典、文学、歴史、美術史等が加えられていないので残念である。ついては、なんとか復活に尽力願いたい。これから増加する高齢者の引きこもりや認知症等を防ぐためにも、ぜひご考察されたい。	市民文化大学は公益財団法人千葉市文化振興財団（以下「財団」）独自の事業であり、その運営に要する経費は、受講料のほか、市から受託している千葉市文化センター等の施設管理委託料によって賄われていますが、平成26年度の包括外部監査において、それぞれの業務割合に応じて案分して計算して業務・事業計上するべきとの意見がありました。この意見に基づき再計算したところ、現在の受講料では事業を賄いきれず財源不足が生じる見込みとなったことから継続は困難という結論に至ったものと聞いております。 千葉市といたしましても、民間のカルチャーセンター等で類似の講座が実施されている現状で、市がこの不足分を支出することは、受講生以外の市民の理解を得ることは難しいと考えております。 受講生の皆様には、民間のカルチャーセンター等の案内をするとともに、市民の皆様の要望や財団と市が本市の文化芸術振興で果たすべき役割などを踏まえた実施するにふさわしい事業の企画について、財団と協議してまいります。	—